

第3回宮代町公共施設マネジメント会議議事録

1 開催日時

令和3年11月15日（月） 午後2時00分～午後4時12分

2 開催場所

役場1階102会議室

3 出席者

佐々木誠委員長、難波悠副委員長、唐松奈津子委員、佐藤恵祐委員、力石琢磨委員

（事務局）企画財政課

栗原課長、伊東副課長、小川主幹、大越主査、山下主事

4 次第

1 開会

2 前回までのおさらい

3 新たな再編モデルの構築

（1）地域コミュニティの場のあり方について

（2）民間力の更なる活用・機能重複施設の統合・収入増と支出減について

4 その他

5 議事(要旨)

(1) 前回までのおさらい

前回までのおさらいについて、事務局より資料に基づき説明を行ったところ、以下のような質問・意見があった。

【事務局から前回までのおさらいについての説明】

佐々木委員長 事務局の説明について、不明点等があれば確認したいと思うがいかがか。

では私から。今回の参考資料は、前回の第1期計画（以下、第1期）の総括を踏まえて、第2期計画（以下、第2期）の方向性をまとめたものか。

事務局 そうである。

佐々木委員長 この資料は報告書の冒頭に掲載するイメージなのか。

事務局 そうする予定である。

佐々木委員長 資料のポイントを確認したい。最初の見出しでは、第1期が学校を地域の中心施設としてとらえ、将来的なコストや将来の町の姿を見ながら、10年間の方向性を示したことが分かる。次の見出しでは、総合計画の構想が掲げられているが、このポイントは何か。第1期には学校というはっきりとしたキーワードがあるが、第2期にはキーワードがない。

進めながら明確にしていくという感じか。

事務局

そうなる。今のところのポイントとしては、第1期ができて10年間進んできた中で、今後を考えたときに、具体的に何が足りなかったのが明確になってきたというところ。第1期の足りていないところを更に掘り下げていくというのを資料に記載している。第1期では、学校を中心とした地域の拠点を集約していくというのが中心となっていたが、その地域の中心施設にあるべき機能やどんなことをすべきか具体的などころには触れていない。ただ集約するというところで終わっているのだから、第2期ではそこを掘り下げていく必要があるというところにポイントを置いている。より鮮明に表していく必要があると記載した。もう一つは、前回の会議で施設が閉じていて入りづらい印象があるという意見があったので、どうすれば気軽に集まったり立ち寄ったりし、コミュニティが活性化する場になるのか、どう開かれた場にしていくのかということも記載している。

佐々木委員長

そのキーワードがパッと目に入ってくるとよい。まず一つ目が中心施設が備えるべき機能と役割、二つ目が閉ざされたイメージを変えていくというようなものが見出しに見えてくると。読めば分かるが、読み込まなくても伝わるように。

他には何かあるか。

では、もう一つの財政的な維持管理費の推移の資料をどう読んだらよいのか、見方を知りたいと思う。新しい村はとても維持管理費がかかっているのではないかと考えていたが、費用を人口で割ってみると、一人あたり年間600円程度だった。そういう見方でよいのか。ワークショップの際、この資料は出さないかもしれないが、公共施設の状態を説明するときに市民に伝わりやすい見せ方や説明の仕方があるとよい。公民館は一人あたり年間300円程度、一度利用したら元が取れるみたいな。ぐるる宮代は一人あたり3,000円程度、家族4人だと12,000円で、それを高いと感じるか、自分が払っている税金に対して見えてくるとよい。今のは例えばの話だが、どう読み解いたらよいのか、数字を出されても分からないというのが素直な感想。例えば、理想の数値とこれぐらい乖離しているから縮めなければならないというのがあれば議論しやすいが、これだけ見ても難しい。

難波委員

小学校にせよ、公民館にせよ、個別に数字が出れば、他の小学校や公民館と比べて、これだけ費用がかかっているけれど利用者は多くないということや、一回利用者が使うのにどれぐらいの費用がかかっているのかが分かる。また、人口で割るのではなく、利用者で割って、負担している金額と比べるとどうなのかという話だと分かりやすい。

佐々木委員長

利用料金が数百円なのに、利用者で割ったら3,000円とかになるかもしれない。

難波委員

そうなる、もっと自分たちで負担した方がよいのではとなるかもしれない。他の自治体では出しているところもある。人件費も含めてやると結構差が出る。本当に統廃合をするときにどこを残そうかなど、強い弱いが出てくるので、もっとこうした方がよいなどを見るときには、手間はかかるがやることはある。

唐松委員

結局、総額がいくらで、どれくらいに抑えていきたい、どうしていきたいというのは計画としてあるのか。

- 事務局 第1期では、更新費用をターゲットにしている、維持管理費に触れていないので、今回新しく追加した。しかし、この資料を出してしまうと、現状の維持管理費に目がいつてしまい、現在の建物の話になってしまうので、市民の方にどこまで提示するのか。計画上、中に盛り込まれているのはよいが、議論の際にここだけの話になり、他のところに波及しないということを懸念している。
- 難波委員 地域でサークル活動を行うなら、一回あたりいくらまで払えますかという投げかけだったら、機能に対していくら払いますかということになる。映画を見に行くのにいくら払いますかというような。維持管理費と、いくらなら払いたい、払えるというので比べることができるかもしれない。
- 唐松委員 そうしていくと我が事になる。
- 佐々木委員長 ワークショップでは、こんなところがあったらよいなと夢の話をするだけでよいのか、もっと現実を見据えた内容にするのか。
- 唐松委員 ワークショップについて、何となくでもプログラム設計はしているのか。
- 事務局 問いを3～4問用意し、話し合っていく。ポジティブアプローチになるので、理想像を描いて話し合っていく。課題や問題点となると、そこから抜けられなくなってしまう。ポジティブに話していても、おのずと課題も出てくるので、そういうやり方で進める。
- 佐々木委員長 10年前に第1期のワークショップをやったときは、公共施設マネジメントを理解してもらわなければならないので、将来的に厳しいというのを説明していたと思うが、今回は説明しないということか。
- 事務局 最初の説明の際、更新費用について説明し、これを維持することはできないという前提を伝えた上で、話していく。しかし、細かいデータを示すと、そこが気になってしまい、話が進まなくなってしまうので、全体の金額としての話。
- 佐々木委員長 その際、金額ではなかなかイメージができない。先ほどの一人あたりのような話に落としてくれば分かるが、何億円、何十億円かかりますと言われても、日常とかけ離れた数字。維持管理費だけでなく更新費用についても考えなくてはいけないのも説明すべきだが、分かりやすい出し方にして欲しいと思う。カ石委員からは、何かアイデアはないか。
- カ石委員 確かに、この資料では判断できない。難波委員の言った通り、学校や公民館やその他施設の平均的な質と比べてどうなのかがないと判断できない。
- 佐々木委員長 民間と比較して、民間で経営をした場合、利用料金をいくらとらないと経営が成り立たないというような。

- 事務局 公共施設ごとの維持管理費と利用料金収入で、一人あたりどれぐらいかというものを小泉改革の時期に出したことがある。何故それをしたかという、もう少し利用者に料金負担をしてもらわないと賄えないというのを町民に理解してもらうため。利用料金ではこれしか賄えていないというのを示したことはあった。しかし、図書館は収入がないので賄いようがない。ぐるる宮代はプールや体育館を使用するなら一定は賄えるというような切り口だった。
- 佐藤委員 福祉施設などはペイできないが、なくてはならない施設。全体としては費用削減というのがあるが、そこがメインに出てしまうと、まずいのかなと思う。
- 難波委員 利用料金をどうするかの話し合いをするとき、必需的な施設か嗜好的な施設かで考える。福祉施設は必需、ラグジュアリーで使用するものではないので、そこには税金を投入する。体育館などは嗜好的なものなので、独立採算までいなくても自己負担を高くしましょうと、4象限ぐらいに分類し、どうするかを考えることがある。
- 佐々木委員長 公共施設で嗜好的なものは体育施設ぐらいではないか。
- 佐藤委員 ワークショップには色々な方が参加すると思うが、意外と公共施設のことを知らないと思う。前回の公共施設マネジメント計画では、施設ごとに使われ方や、稼働率、利用している世代などが示されていたので、そういうのが簡単にでも示されているとよいと思う。
- 唐松委員 最低限の情報がないと理解が難しいのではないか。
- 難波委員 自分が使わない所はいらぬという風になってしまう。
- 佐々木委員長 ただし、ワークショップは、この議論に加わってもらう訳ではなく、地域のコミュニティ施設、地域コミュニティの在り方を聞きたいということ。
- 佐藤委員 この会議では、ワークショップで出た意見を踏まえて、そういう機能を希望しているならここと一緒にできるのではないかと、こんな形ができるのではないかと提案する感じか。
- 佐々木委員長 ワークショップのゴールは何か。
- 事務局 今のところ、地域コミュニティの場の在り方を聞きたいと思っている。あまりデータを出すと高い安いという話になってしまうが、そうではなく、地域で生活する上でどうなのかを聞きたい。
- 唐松委員 そういう意味では、客観的なものよりも主観的で、自分の環境を基盤に話をしてもらう方が掴みやすいかもしれない。
- 佐々木委員長 単なる夢を聞いてもきりが無い気がする。ニーズの高さ、必要性和掛け合わせないと。どう現実的な話に持っていくか。

- 事務局 どうして地区コミュニティにフォーカスしているのか、スライドで前提条件を見せる予定。高齢化や地域コミュニティの崩れというところ、身近にどんなものがあればというのをスライドで紹介した上で話し合いを考えている。
- 佐々木委員長 あとは、かつてのように大きな箱物がどんどん作れる時代ではないというのも伝えた方がよい。大きい施設が宮代にも欲しいという話になっても、現実的ではない。そうならないような説明の仕方が必要。維持管理費の話については、ワークショップは別としても、報告書、公共施設を考えるベースとして、何かしら市民が理解しやすい表現を検討してほしい。
他に資料について質問はあるか。
- 唐松委員 第2期で目指すものについて、今まで議論してきたかもしれないが、学校を地域の中心施設とした議論は、結局どうなったのか。この延長線上で第2期の議論をしているというスタンスでよいのか。また、今回はハードよりもソフト面をとすることは重々承知しているが、ハード面で押さえておくべきことの有無についての議論は必要かと思う。
- 佐々木委員長 第1期のことは前回の総括にまとめてある。小中学校の話は、色々変遷があり並行していくしかない。一方で、学校に触れない訳にはいかないというのが共通認識でよいと思う。
- 事務局 第1期は、地域の中心施設に学校があるというイメージ。学校の中にコミュニティ施設があるのではなく、地域の中心エリアに学校や公民館などがあるとしたらどうかという抽象的な提言になっていた。それから10年が経ち、そろそろ具体的にどうにかするとなったときに、舞台はどこなのかという答えを持ち合わせていないので、第2期ではそういうところにフォーカスできれば。学校というガードの固い施設が受け入れてくれる許容性を持ち合わせているのかを含めると、どういう工夫や機能があればよいのか。第1期で議論していなかったところを考えていく。
- 佐々木委員長 「エリア」という近くあるような言い方だったが、同じ建物の中に入れるという報告書になっていたと思う。
- 事務局 その建物が学校かどうかは記載していない。受け取り方になるが、学校の中に他の施設を入れると思っている場合とそうでない場合とがある。
- 佐々木委員長 併設という意味では同じ。
- 難波委員 まだ検討段階のようだが、早ければ来年度から、文科省が学校に集約した場合の補助率を引き上げるとするのがネット上に出ている。改修費に対する補助率が現行の3分の1から2分の1になるようだ。
- 佐藤委員 コミュニティスクールの関係もあり、学校を地域で使うという方向は間違いはない。

- 難波委員 機能の面で、学校に入れられるものと入れない方がよいものを区別した方がよい。学校を使える場合は使って、補助金も使えるものは使えばよいと思う。
- 佐々木委員長 唐松委員の意見に戻ると、学校の扱いがモヤモヤしているということか。
- 唐松委員 モヤモヤしている。あと、具体例として話すと、駅前に無印ができて、これからの公共施設を考える上で、点、線、面の取り組み方などハード面での配置やどこから着手するかイメージをここで描かなくてよいのかと思っている。ランドマークになりそうな、ある程度お金をかけるし、残してもよいもの同士を繋いで回遊させるのかの議論はしなくてよいのか。その点となるものを学校としてよいのかなどが気になっている。
- 佐々木委員長 点と言ったが、起点という感じか。
- 唐松委員 そうである。目的があって行く施設や目的がなくても何となく行ける居場所があると思うが、例えば、目的となる所を点として、そこまでの回遊の導線も居場所や経路として設計できるのかという物理的なことも考えなくてよいのかということ。
- 佐々木委員長 ストーリー展開のような。
- 力石委員 そういう点も第2期で含めてもよいのではないかと思う。公共施設マネジメントと言いつつ、コミュニティの在り方など広いテーマで議論している。ワークショップでどんな話が出てくるかにもよるが、地域住民にとって何がベストなのかを含めての方がよい。
- 事務局 地域そのものが機能、役割というようなものか。
- 唐松委員 公共施設は分かりやすい施設もあるが、道路や公園を含めて公共空間も広義の公共施設とするのであれば、また、回遊性や町の盛り上げも広く考えるのであれば、そういう視点が必要だと思った。
- 難波委員 ソフトで考えたときに、コミュニティバスで繋がればよい、建物がなくてもよい、というのもあり得る。
- 佐々木委員長 そのためには、とっかかりは学校なのかそうではないのか。
- 唐松委員 先ほど、難波委員が言ったように、学校に入れられるものと入れられないものは明確に分けられると思うので、そこから着手していくと、入れられないものをどうするかという話に展開していくのではないかと思う。
- 佐藤委員 感覚的には、平成 23 年に作成した公共施設マネジメント計画が基本になっていると思っていた。すぐには難しいが、長期的には学校がコミュニティの中心になるので、基本的にはそこに集約していく。しかし、今すぐ集約できないものもあるので、この機能は学校の近くで代用して、いずれは学校へ移していくというような段階的なもの。前は学校あ

りきだったものを今回は当面の役割でこの機能を持たすという感じなのかと思っていた。

事務局 全ての地域で学校が中心なのか。こちらは学校だが、あちらは学校ではないというのがある気がしている。

佐々木委員長 そうすると、第1期の振り出しに戻ってしまう。

佐藤委員 笠原小で行っている陽だまりサロンやすだちの家は学校の中で行われているが、それを狭い東小で行うとなると現実的ではない。そうすると近くの百間公民館を合わせた形でのコミュニティの機能というのを考えなければいけない。

佐々木委員長 第1期の中心施設というのを振り出しに戻さないとすると、学校の敷地の中に学校機能、可変機能、共用機能があり、敷地内の少し離れたところに地域コミュニティ機能があることになっていたが、佐藤委員が言ったように、学校の敷地の外でもよいので近くに集めるというのを出発点にする共通認識はあった方がよいかもしれない。それも外してしまうとなると、言わない方がよいのではないか。第1期を白紙にするというのもありだと思うが、議論が振り出しに戻ってしまう。集約する以上は、統一地点ができてしまうのは宿命という前提。その補完として、コミュニティバスで繋いだり、デマンドバスを新たに実施したり、そういうのを考えるにしても、逆行するようなことはしない方がよい。なるべく学校だが、学校に入れられるか、入れられないかを気にしながら、その辺りに集めるという前提でよいか。

これでやっとスタート地点が確認できた。

他に何か気になるところはあるか。

以上

(2) 新たな再編モデルの構築

新たな再編モデルの構築について、事務局より資料に基づき説明を行ったところ、以下のような意見があった。

【事務局から新たな再編モデルの構築についての説明】

① 地域コミュニティの場のあり方について

佐々木委員長 何か気づいた点など意見があれば。

力石委員 資料の3つの分け方はよい。目的があって行く、目的がない人も行ける、やりたいことをサポートする、この3つの分け方はとてもよいと思う。

佐藤委員 地域コミュニティと施設の在り方を考えていく中で、利用する目的によってレベル分けできると思う。先日、町の中をぶらぶら歩いていたが、お茶を飲んだり、人に会ったりという施設を利用する目的がないとなかなか行きづらい。施設を利用する目的のレベルが高いか低いかの違いだと思う。小さい図書室があるだけでもそこが目的になるので行きやすくなる。そこでやりたいことをサポートしてくれるととてもよい。サークルや地域防災は決まった目的、レベルの高いというか、行かなければいけない目的となる。

- 難波委員 日頃の何となく今日何しようかなの目的とは違う。
- 佐藤委員 写真を撮る目的でもよい。進修館に七五三の写真を撮りに来た人もいるようだ。
- 佐々木委員長 この目的にも分け方があって、NPOのような社会的な目的がある場合と友達とスポーツをする場合とでは違うと思う。
- 佐藤委員 東洋大学の教授が書いたもので、コミュニティは地縁型とテーマ型がある。地縁型というのは、防災など地域としての地縁血縁、テーマ型はやりたいこと。
- 佐々木委員長 上野千鶴子さんは、地縁血縁と選択縁。地縁血縁は、生まれたときからそこにある、拒否しがたいもの。選択縁は、自分で選ぶもの。あとは、コミュニティとアソシエーションという言い方がある。お楽しみ系と社会的な目的がある学校、職場のような。
- 唐松委員 先ほど、難波委員が言った必需か嗜好かにも近い。
- 佐藤委員 日常生活に密着した安心感が保てるコミュニティというのと、生きがいややる気など生活に潤いを与えるようなコミュニティ。言い出すと色々でてきてしまうが、どちらも施設の目的としてはあると思う。
- 佐々木委員長 おそらく目的があって行く場所は、元々ある。そうではない場所をどう考えていくか。進修館2階ロビーでお喋りするとか、新しくできたカフェに行ってみるとか。
- 佐藤委員 そういう場所で新たなつながりが生まれるかもしれない。
- 唐松委員 先週末、池袋駅で池袋リビンググループがあった。池袋リビンググループの主催者からは、公共空間に目的地ではない居場所を作ることを実現することで、見た人がいる風景を作っていくという話があった。ゴールがどこかの話になるが、人気があって何となく賑わっている町なのか、みんなが自分なりの居場所をどこかに確保できる町なのか、ビジョン次第とは思うものの、そういうのは提示したい。
- 佐々木委員長 先ほどの点から面になる展開をどうしていくか。
- 唐松委員 池袋リビンググループは、目的地ではない場所を作るといっているのがある。あとは、日常を公共空間に持ち込もうというのを重要視していて、Wi-Fi や電源のついた木製の屋外家具を10月末から1月末まで4か月間限定でグリーン大通りに設置して社会実験をしている。以前はイベントだったが、日常にしていこうようにシフトした。それも一つの形だと思う。どんな風景なら宮代町らしいのか、イメージが描けるとよい。
- 力石委員 メッセージ性があるのはよい。

- 唐松委員 屋外をリビングにと言われるとキャッチー。
- 力石委員 宮代町の原風景を何かストーリーやメッセージに変えたいなというのはある。
- 難波委員 施設に話を戻すと、結局、公民館は、今は目的がないと行けない。地域コミュニティの場という、何となく公民館や学校と思うが、結局目的がないと行けないし、フラットと立ち寄れない。そこをどうするか。素敵なコンセプトを考えていきたい。総合計画に書いてあるような話は、必ずしも公共施設じゃなくても、民間施設でもよいから、そういうところを打っていこうというもの。
- 佐々木委員長 そういう意味では、総合計画に載っていた方が予算化しやすいので、無理やりにも事業とくっつけた方がよいので、なるべく多く挙げてもらった。
- 佐藤委員 総合計画のそれぞれの事業は、どこかしらの場所を使っている。
- 佐々木委員長 例えば、「まちなかどこでもミュージアム事業」というのは、担当の方が作った企画書を見せてもらったことがあるが、道路を使うということだが、そこに接している民間の軒先や空き家でも展開できたらというのはあるので、くっつけやすいのではないか。ミュージアムなので教育活動やアート活動を含んでいるが、居場所という切り口があっても面白い。
- 力石委員 「地域のオリジナルパークを作ろう！」もそういう事業か。
- 事務局 地域の街区公園、住宅の中にある公園を地域の人たちと一緒にリニューアルして、自分たちが欲しい公園にしていこうというもの。
- 難波委員 確か、議論のときに出ていたのは、未だに児童向けの遊具があるが、住んでいる周りは高齢化していて誰も使っていない。そこをもっと使えるようになったらよいという話だった。
- 佐々木委員長 これも居場所的に、目的がない人も行けるとくっつけられる。
- 難波委員 「遊休資源活用プロデュース事業」は、公共施設なのか、民間施設なのか。
- 事務局 公も民も両方。あらゆる遊休資源を使う。
- 佐々木委員長 そうすると、目的がないというのは色々な事業とくっつけて予算化し、部所を横断的にやったらいかがですかというような報告書ができそう。
- 佐藤委員 実行計画にある事業を色々な施設を使って行うとなると、そこに目的ができて、この事業に行こうというきっかけづくりになる。市民は参加、行政は企画という形で、地域との関わりをつくるきっかけに公共施設や事業がなっていく。前回、郷土資料館が活用されて

いないと言ったが、広報を見たら色々な事業を考えてやっているの、そういうきっかけを作れば、今まで来なかった人が公共施設に足を運ぶことにつながるし、施設に対する理解も深まる。そういう形で公共施設が使われるとメリットがあると思う。

佐々木委員長 それをどう企画して実現するかの道筋が、点から面にどう展開していくかの話につながる。そのアイデアがあるとよい。一体誰がやるのか。

唐松委員 気になっていたのが、「チームみやしろ会議」。あの方々はどうなっているのか。

佐々木委員長 結構クリエイティブな人が集まるので、発掘する場にしてほしいと思っている。

事務局 月に一回開催していて、次回は12月3日金曜日。現在はコロナの感染対策で定員が30人。最初は5人程に声をかけ知り合いを連れて来てもらった。

唐松委員 そういう人が担ってくれれば、と言うと他力本願だが期待したい。

佐々木委員長 「東武動物公園駅西口わくわくロード事業」、「まちなかどこでもミュージアム事業」の担当者も10月の会に参加していて、そこで参加者の女性がトリエンナーレを駅から進修館、新しい村の辺りまでやりたいと言っていて、ぴったり重なるなど。まず一回目のミーティングを早くやると担当者をお願いしたが、まだ動いていないようだ。「チームみやしろ会議」は、一つのきっかけにはなる。モデルの一つは、「としま会議」。又聞きレベルの話だが、民間の事業は立ち上がるが、公民連携にはまだいいない。

唐松委員 トップダウンの話で言えば「さがデザイン」。県知事も参加して、100人程の登録クリエイターがいて、プレゼンなどをする。県知事とそれぞれの部門の代表者、課長や係長が居て、クリエイター側が提案すると、県知事からどこの部署という感じで話が振られる。その会場で賛成が集まると、やりますと県知事が言い、その場で採択する。

佐々木委員長 その場で決まるとよい。先ほどのトリエンナーレの話もミーティングの日程だけ決められれば進む。道路課や教育委員会の代表者に来てもらってその場で決めてもらう。無印良品の前に「みんなの広場」がある。あそこはずっと更地で放置されていたので、使っている風景を見せるべきだと東武鉄道と無印良品の人がいる所でバーベキューを提案したら、無印良品の人が動いてくれた。とてもよい交流ができた。

唐松委員 今日天気がよかったからか、無印の前や進修館の前の広場も子ども連れの人などたくさんいた。

佐々木委員長 将棋をやっている人もいた。ゲートボールもやっていた。

唐松委員 それも居場所。とてもよい風景になっている。

佐々木委員長 話を戻すと、スピード感を持って進められるものがあるとよい。よいことを計画して報

告書に記載はしているが何もできないとなってしまう。「としま会議」や「佐賀デザイン」の例示をして、「チームみやしろ会議」でこんな実績もあるというような。どこまで記載できるかは分からないが、それをこんな展開していけばよいのではないかと。あるものを組み合わせるだけで相当なものができるような気がする。ポイントは、どう実現するか、点を面にしていくかが重要。他に意見はあるか。やりたいことをサポートする機能に事業として重なるものはあるか。

カ石委員 「小商いからはじめようチャレンジショップ推進事業」とか。

唐松委員 あとは、「身近な場所で子育てサロン事業」。

佐々木委員長 それぞれの分類に、色々な事業があてはめられそう。

難波委員 「地域のオリジナルパークをつくろう！」は、人によってはやりたいことに。「高齢者困りごとサポート事業」もそうかもしれない。

カ石委員 目的が無い人が立ち寄ったときに、町の中の活動を知れたりすると、関心を示したりして自分も参加してみようかなという動機付けにもなるかもしれない。そういう場があってもよいと思う。単にお茶を飲んで終わりもありだし、そこで地域活動をして、自分もやってみたいというような。

唐松委員 今朝のニュースで、東京都がオリンピックを受けてボランティアを公開募集するサイトを作ったというのを見た。情報がオープンになったことで、子どもを連れていくのに丁度よい活動はないかなと思った。情報が開かれて、やっていることが共有されると、それを目的に変換していくこともできる。

佐々木委員長 情報をオープンにするとは。

唐松委員 東京都が認定したNPOなどの団体だと思うが、ボランティアの募集情報などを掲載できる。ユーザー側は登録をすると参加申し込みができるという場を作ったようだ。都内で行われている活動が一覧できる。

佐々木委員長 今までバラバラだったものを一つのポータルサイトにするように。

唐松委員 そうである。ボランティアをさせたいと思ってもなかなか探せない。まだ検索してはいないが、そこに行けば、エリアや日付で検索できれば、何もすることがない日に子どもと一緒に覗ける。

佐々木委員長 なるほど、場所検索のようなものか。宮代の場所を検索して、目的がある人、ない人、今日はこんなのがありますというような。実はあそこで街歩きをしているとか、自然観察会をやっているとか、宮代の居場所みたいなサイトができるとよい。

他の切り口でも構わない。地域コミュニティの場の在り方として4つ資料にあるが、こ

の辺も足掛かりにしながら意見等があれば。

事務局 中央エリアには、先ほどから話が出ているような場がふんだんにある。進修館、無印、新しい村、図書館など。一方でそういった場が少ない地区もある。

佐々木委員長 前回、力石委員から施設と施設をつなぐ農のみちを活用したアイデアがあった。離れているが、意外に歩けるといような。地図で見ると、姫宮の駅からも歩ける距離になっている。途中で何か見所があると、今日はこのルートで歩いてみようなど、新たなルートができて少しずつ居場所が増えていく。そういった場所が少ない地区にも集会所があったり、パンの店や農村カフェ、直売所などの民間施設があったりして、それが検索して出てくると、そこに行こうとなる。役場の近くの畑でも、朝採れたての白菜を売っていたりして、産直情報はたくさんありそう。

事務局 道沿いに小屋があり、売っている場所はある。

佐々木委員長 そういった場所は、近所の人には知っているが、そうではない人は知らない。一応マップはあったが、季節によっても随時変わる。そこで、先ほどのボランティアのようなサイトがあれば、自然に力石委員の言っていたマップができてしまうのではないか。

難波委員 地図を見ていると、活用できそうな場は、全体的に鉄道沿いに寄っている。西条原・東条原エリアなどは、集会所と神社くらいしかない。

佐々木委員長 意外に神社が多い。そういう街歩きとか、桜のロードとかもよい。

難波委員 バスも割と鉄道沿いしか走っていない。そうすると西側の方の人たちをどうするか。

佐々木委員長 資料に記載してあるように、気軽に立ち寄れる場とするなら、行政ではなく民間。直売所もそうだし、カフェもそう。何らかのイベントがありますというように。民間との連携や民間の活用がキーワードになる。

佐藤委員 先日仕事で、人間市にある指定管理をしている博物館に行った。博物館にはそうそう年に何回も行かないが、役所は利用率を高めたいということで指定管理にした。指定管理者に話を聞いたら、とりあえず、博物館を知ってもらい、来てもらうということで、キッチンカーを呼んでみたり、西武ライオンズの選手を招いて野球教室を開いたり、吹奏楽のミニコンサートをやったり、プラレール博をやったり、本来の博物館ではやらないことをやってみて、まずは来てもらって知ってもらい、人が集まることで交流が生まれて、次につながるという話をしてきた。公共施設の目的はあるが、それ以上に人が集まり、交流することで、日常生活が豊かになるきっかけになり、施設に還元されていくととても価値があると思った。

唐松委員 とても共感する。佐賀は、県立の博物館と美術館が並んでいて、丁度そこが広場になっている。月に1~2回、県内のコーヒー業者が30~50集まるイベントなどをやっている。

そこに行って、美術館のトイレを借りたり、入ってみると展示をやっている子どもが見たいと言うので、行ってみるかというような導線。それは、きっかけとして順当だと思う。

佐藤委員 別の施設で、アミーゴという進修館のような市民の芸術文化の活動スペースを作っている場所がある。そこでは、市民がプロデューサーとして、自分たちで企画を出し、調整しながら活動している。市民がきっかけを作る側に関わっている事例となる。それは簡単そうに見えて、なかなか難しいとっていて、自分がやろうとしてもすぐにはできない。当時の市長が地方自治の実験場として、市民団体に管理を任せただ。とてもレベルの高い公共施設の使い方だと思った。そういうことが宮代町でもできればよい。

唐松委員 「まちづくり」と言うが、「まちづかい」に発想が転換できないかという話をしたことがあった。国交省のグランドレベルデザインというものがある。グランドレベルというのは、人が立って目に見える範囲の風景が町の印象を決めるというもの。6月に国交省がグランドレベルデザインの指標を発表していて、5つの指標として、育成・管理、ビジョン、空間デザイン、アクティビティの誘発、体制が挙げられている。この5つの要素が町の風景を作る上で重要という話をしていたとき、「まちづくり」というと誰かが作っているような印象を与えるが、どちらかというと一人一人が町を使うという「まちづかい」の意識を持てることがポイントだという話があった。そこに通じると思った。情報の公開や使い方イメージが重要だと思う。

佐藤委員 最初から「まちづかい」まではいけないと思うが、利用者として行って、色々な人と関わっていく中で、面白そうな話を聞いてやってみる。そして上手く「まちづかい」になっていければよい。

唐松委員 チームみやしろの皆さんは上手いはずだから、そこから広げていければ。

事務局 「宮代は日本のフィンランド」という3人のユニットがある。宮代の写真を撮っている男性が居て、その人の写真を紹介したいと、デザイナーと英語教師の方が一緒になった。その写真が北欧風に撮れているので、宮代は日本のフィンランドだと言い切って、展示をしたりイベントをしたりしている。

佐藤委員 その方たちと総合型スポーツクラブの方たちがコラボして、フィンランド発祥のスポーツもやっていた。別のことをやっている団体が合わさって新たな活動が生まれるのは凄い。そういうのがあちこちに広がっていくとよい。

唐松委員 市民の皆さんはそのとても面白い話を知っているのか。

事務局 その話に関与していないが、色々なところで話題になるとよい。

カ石委員 そういうサイクルがよい。ポテンシャルはあると思う。それだけよい風景があるから、そういう発想が出てくる。

- 佐藤委員 そのイベントは新しい村でやったが、進修館ではエペの選手が来て子ども向けイベントをやっていた。そういうのを休日ごとに各地でやっているのが結構宮代の強みだと思う。何か面白いことやっているねと知り合いにも言われる。行政だけではなくて、市民も自分発信でやる人が増えてきている。
- 佐々木委員長 行政がやっているのではないと話があったが、民間が既にやっていることをつなぐだけでも物事が起きていき、居場所になったりする。編集をするだけでよい。費用もあまりかからない。
- 佐藤委員 新しい村、進修館という公共施設がなかったら、そこではそういうことができない訳だから、そこを上手く使っていければ。
- 佐々木委員長 複合施設として、森の市場があり、近くの集会所ではイベントをやっていたりする。その辺りに行くと色々賑やかにやっていることを、みんなが分かるようにしっかりと情報発信することが大事。
- 佐藤委員 西原自然の森でも意外と色々やっていて、今度、郷土資料館とすてっぷ宮代と一緒に障がい者週間に合わせてイベントを行う。イベントがあるとそれに合わせて、行ってみようかなとなる。
- 唐松委員 池袋リビンググループの話に戻るが、ホームページではリビンググループのイベントだけでなく、同じ日に他の団体が行うイベントも紹介している。それによって参加者に街を回遊してもらっている。
- 佐々木委員長 無印良品の中に町の案内所というのがあり、大きな黒板に宮代の地図が描いてある。まだ書き込みはないが、鎌倉の店舗では、複数の店舗がプロットされており、ショッピングカードとともに、地図で紹介している。まだ宮代は始まったばかりで、パンフレットを置いているだけだが、活用されるとパンフレットのはけ方も尋常じゃなくなると思う。
- 難波委員 施設予約システムの導入の話になるが、どこで他の活動が行われているのか、同じ時間に体育館の隣のコートで誰が何やっているかというのが全然分からない。現地に行くと、合気道をやっていたり、さすまたをやっていたりというのが分かる。施設の予約システムを作ってもそれで終わってしまうが、今の話だと、今日この日は誰が使っていて何をやっているのかが見えれば、サークル活動の見学を呼びかける人もいるかもしれないし、似たことをやっているなら一緒にやらないかというのもあるかもしれない。
- 佐々木委員長 見学に行くだけでも楽しい。
- 難波委員 単なる予約システムを作っただけではもったいない。
- 唐松委員 ただ自分が予約して終わりとなる。

- 佐藤委員 先ほどの入間市のアミーゴでは、予約システムを広域で持っている。市民もネットで予約できた方がよいと言っているが、面倒でも最初は必ず来てもらうことにしている。来てもらって、どんな使い方をしたいか、どんな人をターゲットにしているのか話を聞いて、それなら他にもこんな使い方やこんな団体がいるから一緒にやってみたらとアドバイスをしながら使っているようだ。予約システムは便利だが、利用調整することでネットワークがつながることも目的の1つにしている。
- 唐松委員 尚且つ、それがネット上で見える化されていると凄い。団体に対してつながりますよというコメントが他の人も見れると、成る程と、どんどんつながっていく。
- 難波委員 単なる施設や部屋ごとではなく有機的につながっているのが見えると面白い。
- 佐々木委員長 あのタイミングに行くと、その活動が見られる、あの人に会えるとか。
- 難波委員 では一緒にやろうなど、種地に公共施設が使えるとよい。公民館に管理人がいて予約しに来たらお茶を出してくれたりなど。余談になるが、最近、地方で女子スポーツチームに無償でグラウンドを貸して、その人たちを地域おこし協力隊や会計年度職員として雇用している自治体がある。女性がいないから消滅可能性都市になるので、活動の場を与えて住んでもらって、給料も支払い、その代わりに町のPRや仕事をしてもらう。まさにチャレンジジョブをやりたい人に、商売の片手間に、給料を払って町の手伝いもしてもらってと。
- 佐々木委員長 ロールモデルを雇うような。
- 難波委員 徳島県神山町という移住地で有名な所があるが、そこでは、この町に足りない機能と呼んでくるというのをやっている。パン屋が欲しいから、パン屋をやってくれる人に来てくださいというように職種指定で商店街に人を呼ぶというのをやっている。そういうのがあると、この辺はこれが足りない、欲しいよね、ここ丁度空いているから誰かに来てもらおうというのがあったりする。
- 唐松委員 ワークショップのときにそういう話が出ないかなと期待してしまう。
- 佐々木委員長 今日の話をかいつまんでするだけでも引き出せるかもしれない。
- 佐藤委員 専門のスペシャリストであっても面白いし、専門でなくても関われるものがあるとよりハードルが低くなる。
- カ石委員 北本市に暮らしの編集室という民間主導の、当初はあちこちの活動の情報発信をしていた人たちが、段々高じて、空き店舗にこういうのが来てほしいという家守的なマネジメントをしている。ビジネスコンテストによるチャレンジジョブなどで段々領域を広げていき、とうとう市が認知し、個人版ふるさと納税事業の委託先となった。一定の手数料が編集室に入るの、それで更に自走、活動資金を捻出している。こういう方々は、候補になるのではないかと思う。

佐々木委員長 それはよい。アイデアがあっても実行できないと仕方がないので、家守的にマネジメントしてくれる人がいるというのが大事。

力石委員 それが行政だとなかなかできないので、民間のフリーな立ち位置でやってもらえる人たちがいればよい。

佐々木委員長 そうすると点が面になっていく。

難波委員 それこそ、車を持っていたらちょっと乗せてもらうとか。

力石委員 コンパクトな町なので、自転車一台あればよいのでは。

佐藤委員 駅ごとに見ると3地区だが、全国的なレベルで見たら宮代は1つの地区。全体が中心市街地みたいなもの。そうは言っても、宮代でいう中心の部分と、地区ごとに安心感ということであれば、出前講座のような健康づくりの事業はもっと細かい地区でアウトリーチしていく形がよいのかなと。大きな事業はバスなどで来てくださいと言えば、ぐるる宮代は端だが、姫宮から全く行けないという訳ではない。面白くて本当に行きたかったら、どういう手段でも来るのではないかと。逆に西原自然の森も面白いことをやっていたら和戸の人も来る。いきいき百歳体操はもっと身近なところ、集会所でやっていたら歩いて行けるとか。総合計画の事業もコミュニティを絡めると潤いとか生きがい、やりがいの事業と福祉的な安心感が伴うような事業があって、「地区コミュニティセンター事業」、「子育てサロン事業」、「健康づくり事業」、「高齢者困りごとサポート隊事業」などは最も身近なコミュニティ。「わくわくロード」と「チャレンジショップ」はもっと大きく広がるかもしれない。各事業が、町民と町が関わるきっかけとなり、公共施設がそういう機能を担えたらなおよいというイメージ。

佐々木委員長 時間もあるので、先に進んでまた戻る形にしたい。

② 民間力の更なる活用・機能重複施設の統合・収入増と支出減について

佐々木委員長 4つの切り口のうちの3つについて、意見があれば。

佐藤委員 民間力の更なる活用については、町としてこの施設をどう使うかの提案をするしかない。自由に提案できる場を作るとか、力石委員の言っていたようなブランディングとか。あとは、そういう施設があるのかどうか。

力石委員 前回資料を渡した西原自然の森周辺から農のみちをつなぐ案について、何社かサウンディングをしてみた。農家レストランや農のみちや新しい村の連携など、面を見通した事業に関心があるという事業者がいたので、調査発注してもらえれば実現できるかもしれないという感触は持っている。ポテンシャルはある。

佐藤委員 外から入ってきてもらうことで今までなかったことが起きたり、発想をもらったり。

- カ石委員 まさにプレーヤーとしてあったらいいなを実現してもらえる。市民の方だけだと、できる人もいればそうでない人もいる。
- 佐々木委員 個々のアイデアをどのようにまとめてアピールし、実行していくか。アイデアを出して、どこまで報告書に載せるのかということもある。
- カ石委員 もっと無印と連携は必要という印象はある。
- 佐々木委員 かなり地域貢献をしようとしていて、地域連携担当という人もいる。
- 佐藤委員 宮代も田舎風土的なところもあるから、外から入ってくる人にいいようにやられてしまったら嫌だという人もいる。また、なかなか民間が自由に入っていきとなっても、意外と入りづらいかもしれない。そこは町が入りやすくなる部分を用意すれば、例えば駅通りのメロンパン屋のように新たな事業者が入ってきてくれるかもしれない。スイミングスクールについては自分が勤めているので聞いてみたが、今の利用でいっぱいなので学校まで使うのは現実的に難しいという感じだったが、費用対効果は分からないが、ぐるる宮代を使って行うというのはもしかしたら可能かもしれない。民間を使っていくという考え方は大きいことだと思う。
- 佐々木委員 この辺はアイデアレベルで、追加があればぜひ。あとはどこまで記載するかと、どう実現するか。
 更に何かあるか。
- 佐藤委員 基本は、公共施設は町民のため。でも、観光施設などは町民以外、外からも来てもらう。そこに関わりをもつことで町民にもメリットがある。
- カ石委員 一つずつ実現性にまでこだわりだすときりがないのでアイデアベース。地域コミュニティの在り方にも関連してくる可能性はあると思う。
- 佐々木委員長 他の2つの機能重複施設の統合と収入増と支出減もアイデアレベルの話になる気がする。
- 難波委員 どこまではっきり打ち出してよいのか。保健センターは、この会議内のコンセンスが合ったと思う。
- 佐藤委員 建物自体も古いし。
- 佐々木委員長 自校式給食は、私が一人で言っている。
- 難波委員 給食を自校式にしてしまうと、全ての学校に調理室を作らなければならないのかという別の問題が出てくる。

佐々木委員長 それは記載できない。

事務局 給食の問題は町が二分されるほどの大きな問題。先日テレビで見たが、フランスの給食は、自校式でメニューもしっかりこだわって作っていた。

佐藤委員 宮代の給食は評判がよいイメージ。

佐々木委員長 「世界の〇〇」というメニューもあって凄そう。

難波委員 給食センターで宅食支援などができれば、それで収入アップが考えられる。特に、評判がよくて、ここで生活してきた人には。新潟あたりのどこかの市町村で、学校給食センターをスーパーの指定管理にしている、スーパーが総菜を作るのに使っている。そういう使い方もある。

唐松委員 給食として作られているなら、栄養成分表とかをきちんと出せるから、ヘルシー総菜としてうけそう。

佐々木委員長 農あるまちづくりの宮代らしさを生かすという方向に力を振ってほしい。農家さんの顔が見え、あの人が作った野菜を食べているんだというような。

事務局 宮代の給食は割と評判がよい。栄養士さんが結構頑張ってくれている。

佐藤委員 公民館機能の移転については、建物も古くなっているし、3館維持するのは難しいという話だったが、使っている人に聞くと、仮になくなったとしても機能はその地区に残してほしいと言っていた。そこで集会所と上手くリンクできるのか、公民館機能にコーディネート機能を加えて充実させて考えていくのか。単に重複しているから1つにするという風には簡単にはいかないと思う。

唐松委員 具体的な議論になると、ここの公民館を廃止した場合、どこの集会所に行けるのかということになると思う。

佐々木委員長 学校に入れるとしても確保できるのか。学校はハードルが高いので、やるとしても時間がかかると思うが、将来的な公共施設マネジメントとしてはありうる案。

あとは、先ほど佐藤委員の話にもあった、機能の複合の話。公共施設がきっかけになり、別のことにも参加できる。同じ建物と言わずとも、同じエリアに色々な機能が複合し、民間も含めて存在すると、居場所の話で言えば、目的があってもなくても行ける場所が実現できるのかなと。

あとは唐松委員の言っていた、点を面にしていく機能が何か必要だと思う。更に前のめりと言うと、エリアマネジメント。ハードルは高いかもしれないが、こういうのを考えるときに例示するのは、柏市にあるアーバンデザインセンター。専門の人が数人いて、地域の人を色々な団体とつなぎながら動かしていくという機能がある。できればよいが、それ

が無理だった場合どうするかとなると、先ほどの家守。民間でやってくれる人がいればよいが、収入面も含めてどう持続性を持たせるか。その話が重要なのかなと思う。

事務局 アーバンデザインセンター、エリアマネジメントは、一般の人にも分かる言葉で伝わりとよい。概念があまりにも伝わりにくい。

佐々木委員長 それは報告書で説明を記載するしかない。

事務局 概念を持ち込まず、事象として説明できる方がよい気がする。

佐々木委員長 一方で、専門的な知識を持っている人は、そういう言葉の方がイメージしやすいというものもあるので、併記する。

佐藤委員 アーバンデザインセンターとは、箱物ではなく機能のことを言っているのか。

佐々木委員長 機能のこと。そういう箱物の中に事務所はあるが、コミュニティ機能などの情報が集まってきて展示を行ったり、講演会をしたりするスペースが駅近にある。

佐藤委員 進修館で始まった市民活動サポートセンターのようなイメージか。

佐々木委員長 もっと専門としてやっている。地域通貨を企画して行ったり、住宅開発メーカーとまちづくりについて話したり、かなり実働的な感じ。市民活動というソフトレベルもあるが、ハードに関わる。

力石委員 浦和美園や大宮にもある。

佐々木委員長 大宮の場合は既成市街地版かもしれない。色々なパターンでできる。宮代は農村が近いので、田舎のルーラルと都市のアーバンの間の造語のラーバンを使って、ラーバンデザインセンターがよいと思う。無印の地域連携の担当の人は、そういうのをやりたいと言っている。エリアマネージャーというイメージ。

難波委員 そういう人に施設予約などもお任せしたい。アメリカのディズニーワールドはホテルをたくさん経営していて、ホテルの予約をする窓口は一か所。連絡をすると、何処が空いていると教えてくれて、稼働率がよい。そういう専門知識がある人に活動を聞いてもらって、予約ができれば場合によってはそれ以外の問い合わせ電話も受けてもらって、委託料を払う。

佐々木委員長 ワンストップ窓口やコンシェルジュか。地域のコンシェルジュという呼び方もよい。他にはあるか。

難波委員 先ほど佐藤委員からあった、わくわくしに出かけていく場所と安心できる日常的な場所が気になり調べてみたが、集会所がある所から半径 300~400 メートルで円を描くと、大

体集会所で町内全域をカバーできる。400～500メートルなら高齢の方でも歩ける距離かと思う。そう考えると、そういう所に日常的な安心できる機能を持ってきてあげる。そして、それ以外の目的を持っていく所は公民館や進修館、学校というようにしていくのもよい。

事務局 初代町長が政策的に集会所を建てた。

難波委員 そのレガシーを生かす。西条原・東条原エリアは若干弱い部分がある。

佐々木委員長 総合計画に集会所に絡む事業はないのか。

事務局 集会所に関する事業は、第4次総合計画に、「みんなで使おう集会所事業」というのがあり、地域交流サロンなどで集会所を使おうというのを集中的に行い、以前よりも使うようになった。

佐々木委員長 第5次総合計画に、その事業はないのか。

事務局 ない。各事業の中で集会所をベースとするものはあるが、集会所を前面に押し出しているものはない。例えば、「子育てサロン事業」や「高齢者困りごとサポート隊事業」は集会所でもやる。

佐藤委員 集会所でもよいし、保育所でもよいし、公民館でもよい。

唐松委員 集会所は数があるので、学校をベースにするというようなことはあると思うが、集会所を活用していく一つの方針として真っ当だと思う。

佐藤委員 福祉や健康に関する事業は、結構集会所を使える。

力石委員 現在の公民館利用者の機能も集会所で賄える気がする。

難波委員 仮に集会所が畳で使いづらいから、板の間に改修したいとなったら、その改修費用は出すとして、その代わりに公民館は廃止してしまってもよいのかもしれない。

唐松委員 集会所の運営は自治になっているのではないか。自治会でお金を集め、その中で賄えているのであれば。改修までは無理なのか。

難波委員 視察した宮代台の集会所はしっかりしていた。

佐藤委員 新しい団地の集会所はしっかりしている。元々地元にあるものは、集会所なのかお寺の何かかという所もあるので、実際に使いづらかったりする。そういうときは、公民館を使ったりする。

佐々木委員 集会所を総合計画の事業と結び付けて活用していく。居場所の在り方と連結させた表現

をしていくと、集会所を使うイメージが分かりやすいのではないか。それでよければ、公民館機能を集会所や学校に分散して移行してくという表現もできる。

佐藤委員 12月4日のワークショップは、自分たちは一般としての参加なのか。外で見ているのか。

事務局 一般の人とともにテーブルに紛れてもらう。

佐藤委員 総合計画のワークショップでも公共施設への意見は出たのか。公共施設の在り方みたいな。

事務局 進修館が誇れる場所というようなものは出てきたが、在り方についてはない。

佐々木委員長 「地域の力となる地区コミュニティセンター事業」だと思う。学校に事務所を開設しとあるが、学校に入れていき、公民館機能、集会所機能をシフトしていく。

唐松委員 そこにコンシェルジュがいると。

事務局 「地域コミュニティセンター事業」というのが、高次元になれば、アーバンデザインセンターとなるかもしれない。

佐々木委員長 それを宮代版アーバンデザインセンターにボトムアップしていく形。30年後にできるみたいなの。

事務局 アーバンデザインセンターに見えなくても、過疎地で自治会長が頑張って地域で収益を得ていこうというような話も実質的にアーバンデザインセンターに近いと思う。

佐々木委員長 デザインとついているのが肝だと思っていて、景観や新しい時代のアイディアを受け入れるような、比較的若い人が関わってくるとよい。

他にあるか。なければ終了でよろしいか。

以上で終了する。

以上